

堀川再生のための連携プロジェクト 2006 の活動と成果について

中部大学 フェロー 松尾直規

名古屋工業大学 正会員○富永晃宏

堀川再生のための連携プロジェクト 2006 主催者委員*1

1. はじめに

名古屋市の堀川は、高度経済成長期に深刻な水質悪化が進んだ。その後の対策により水質は改善しているものの合流式下水道の未整備、感潮河川などを背景になお課題が残されている。筆者らは「流域管理と地域計画の連携方策に関わる共同研究」の下で2004年度から3年間にわたり「都市河川水質改善のための社会的技術選定プロセスの設計」と題して研究を進めてきた。2006年度はその一環として産官学民の多様な主体が連携して堀川再生の課題解決に取り組むことをめざして「堀川再生のための連携プロジェクト 2006」を主催した。実験・調査を行いつつ、年間20回程度のワークショップを通じて堀川と取り組みのあり方を議論した。

2. 堀川再生のための連携プロジェクト 2006 について

2.1 実施概要 堀川再生のための連携プロジェクト 2006（以下、堀川連携プロジェクトとする）は産官学民から約90名が参加し実施された。以下に活動内容を示す。

A) オープニングイベント（平成18年3月27日）：堀川連携プロジェクトの目的、意義を説明し、ワークショップのテーマを検討した。「堀川を活かした魅力あるまちづくり」、「堀川に関わる連携方策」、「水質の感覚的評価と浄化方策」、「堀川の良さの再発見」「環境学習と情報発信・PR」の5つのテーマが選定された。

B) 第2回会合（平成18年4月22日）：設定されたテーマによるグループを順に第1グループ～第5グループとし、参加者のグループ分けを行い、ワークショップを開始した。それぞれの目的、活動の違いにより回数は異なるが、第1グループは4回、第2グループは4回、第3グループは14回、第4グループは12回、第5グループは9回のワークショップが実施された。

C) 中間発表会（平成18年9月3日）：各グループの途中経過と今後の予定が報告され、情報交換を行った。

D) クロージングイベント（平成19年3月21日）：各グループの成果発表を行うと共に、産官学からの代表者と民代表のイベント参加者による、堀川の今後に向けての討議と活動（方向性）の確認が行われた。

2.2 グループ毎の成果 各グループでまとめられた成果を以下に示す。

第1グループ：堀川の活用として舟運に注目し、川沿いの空き地の有無や利用状況など基礎資料整備のためのGISによるデータベース化とCG作成を行い、景観なども含めた検討に有効なシステムを構築した。

第2グループ：整備、活用に関わる産官学民の連携のあり方を議論し、緩やかな連携システムを提案した。

第3グループ：ゴミとにおいに着目し調査した。浮遊ゴミは枯葉などの自然ゴミが多いこと、松重閘門水域部の存在により浮遊ゴミが長期化すること、全域でドブ臭があり、特に中流域で臭うことが示された。

第4グループ：堀川の歴史、情報を整理し、利用価値の高い小学生向けの環境学習パンフレットを作成した。

第5グループ：WEB写真コンテストを実施し、今後のPR活動のあり方に参考となる情報が示された。

グループにより得られた上記の成果は、今後の活用が大いに期待できるものである。ここでは、グループ毎の成果とは別に、堀川連携プロジェクトが参加者に与えた影響とワークショップの課題などを考察する。

3. 堀川連携プロジェクトとしての成果および課題の抽出

堀川連携プロジェクトを終えるにあたり、参加者にアンケート（内容のみを表1に示す）を実施した。こ

キーワード：連携、堀川、産官学民、ワークショップ、

連絡先 〒487-8501、愛知県春日井市松本町1200、中部大学工学部都市建設工学科、TEL 0568-51-1111

ここでは、問4～問6の結果を用いて、堀川連携プロジェクトの成果と課題を考察する。なお、アンケート回答数は43件であり、無記入の項目は省いて考察している。図1に問4①の有効回答をプロジェクト前後で自分の考えが「変化した」と「変化しない」で分けて示す。堀川に関心のある方が参加していることから、変化しないと答えたことも理解できる。考えが変化したと回答したのは20件近くであり、堀川に対して「興味がわいた」「連携を意識した」「課題、方向性が明らかになった」などがあつた。つぎに、図2に問4②の堀川の課題を深く知ることが「できた」と「できなかった」に分けて示す。本図から約30件と多くの方が、課題を深く知ることができたことがわかる。課題内容は、住民の無関心に関するものが6件、産官学民の連携に関するものが7件、水環境に関するものが14件などであつた。図3に問4③の行政の取り組みについて深く知ることが「あつた」と「なかつた」に分けて示す。本図から、10件程度が「あつた」と答えているが、同程度「なかつた」とも答えている。これらの結果から、堀川連携プロジェクトにより、参加者に堀川に対する考えを変えるような情報の提供があり、その内容も「より深い興味」「連携」に関連するものであつた。また、他者との議論を通じて堀川の課題を深く学ぶことができている。ただし、さまざまなテーマでワークショップを進めたことから、行政の施策は十分に学ぶことができなかった。実際の水環境改善のためには、行政の施策が第一の重要度を持つため、住民によるその認知と理解は、施策を進める上でも非常に重要となる。図4に問5①の結果を、図5に問6①の結果を示す。これらの図より、参加したメンバーは堀川連携プロジェクトによって得られた成果も多いと感じていることがわかる。アンケート結果からみえてくる本プロジェクトの課題としては、「堀川連携プロジェクトのグループ間の連携については、不十分であつた」「それぞれの立場の人間がいる中では、まとめるのは難しい」などがあつた。

ここでは、問4～問6の結果を用いて、堀川連携プロジェクトの成果と課題を考察する。なお、アンケート回答数は43件であり、無記入の項目は省いて考察している。図1に問4①の有効回答をプロジェクト前後で自分の考えが「変化した」と「変化しない」で分けて示す。堀川に関心のある方が参加していることから、変化しないと答えたことも理解できる。考えが変化したと回答したのは20件近くであり、堀川に対して「興味がわいた」「連携を意識した」「課題、方向性が明らかになった」などがあつた。つぎに、図2に問4②の堀川の課題を深く知ることが「できた」と「できなかった」に分けて示す。本図から約30件と多くの方が、課題を深く知ることができたことがわかる。課題内容は、住民の無関心に関するものが6件、産官学民の連携に関するものが7件、水環境に関するものが14件などであつた。図3に問4③の行政の取り組みについて深く知ることが「あつた」と「なかつた」に分けて示す。本図から、10件程度が「あつた」と答えているが、同程度「なかつた」とも答えている。これらの結果から、堀川連携プロジェクトにより、参加者に堀川に対する考えを変えるような情報の提供があり、その内容も「より深い興味」「連携」に関連するものであつた。また、他者との議論を通じて堀川の課題を深く学ぶことができている。ただし、さまざまなテーマでワークショップを進めたことから、行政の施策は十分に学ぶことができなかった。実際の水環境改善のためには、行政の施策が第一の重要度を持つため、住民によるその認知と理解は、施策を進める上でも非常に重要となる。図4に問5①の結果を、図5に問6①の結果を示す。これらの図より、参加したメンバーは堀川連携プロジェクトによって得られた成果も多いと感じていることがわかる。アンケート結果からみえてくる本プロジェクトの課題としては、「堀川連携プロジェクトのグループ間の連携については、不十分であつた」「それぞれの立場の人間がいる中では、まとめるのは難しい」などがあつた。

4. おわりに 河川整備は市民の意思を反映したものでなければならず、その遂行には、市民の理解が不可欠である。本プロジェクトでは産官学民の連携をキーワードに堀川の課題と対策について検討した。このようなワークショップにより、課題の十分な理解、連携方策のあり方を住民に意識させることが可能と考える。

*1 堀川再生のための連携プロジェクト2006主催者メンバーリスト：松尾直規，武田 誠（中部大学），富永晃宏，和久昭正，秀島栄三（名古屋工業大学），原田守博（名城大学），浅野和広，許士裕恭，古谷健蔵，稲葉 傑，近藤貴之，太田 均，岩田典彦（国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所）

表1 アンケート内容

●堀川と堀川に関連する活動（民産）・整備（官）・研究（学）などについて
問1：①堀川の現状についてのお考えを教えてください。 ②堀川に対する活動、整備、研究の現状についてのお考えを教えてください。
問2：①堀川が今後どのようになるべきか、お考えを教えてください。 ②堀川に対する活動、整備、研究などを今後どのようにすべきか、お考えを教えてください。
問3：本プロジェクトでは「連携」をキーワードとしてきましたが、ご自身の「連携」に対するお考え、また今後どうあるべきかを（具体的でも理念的でも構いませんので）お聞かせください。
●つぎに堀川再生のための連携プロジェクト2006についてお聞きします。
問4：①問1～問3についてプロジェクト前後でご自身の考えに変化があつたでしょうか、変化がある場合は具体的にどのような変化があつたかを教えてください。 ②本プロジェクトを通じて堀川の課題を深く知ることがあつたでしょうか、知ることがあつた場合は具体的にどのようなことであるかを教えてください。 ③本プロジェクトを通じて行政の取り組みについて深く知ることがあつたでしょうか、知ることがあつた場合は具体的にどのようなことであるかを教えてください。
問5：①プロジェクトにどれくらい関わられましたか？ (1)没頭するほど (2)十分に (3)程ほどに (4)ほとんど関わっていない ②どのように関わられましたか？（取り組まれたこと、取り組み方、印象に残ること、など）
問6：①本日まででプロジェクト全体としての成果はどの程度としますか？ (1)非常に多い (2)多い (3)少ない (4)ない ②上記①で(1) (2)または(3)とお答えいただいた場合、どのような成果があつたと思いますか？
●最後にご自身および社会全般に対するお考えについてお聞きします。 問7～問17（省略）

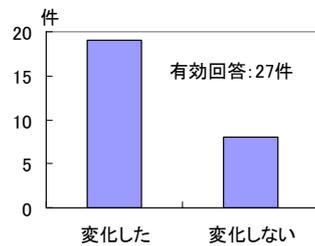


図1 問4①の結果

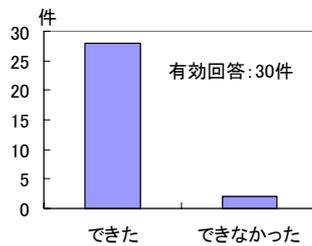


図2 問4②の結果

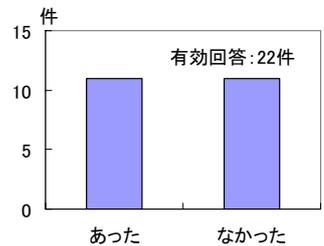


図3 問4③の結果

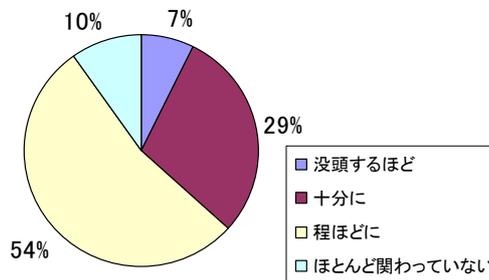


図4 問5①の結果

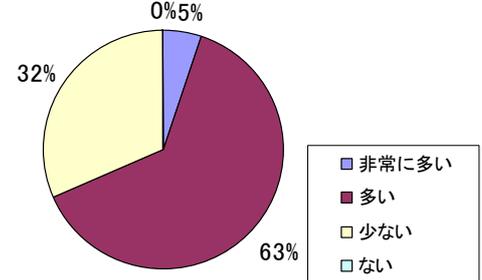


図5 問6①の結果